

前期終業式の校長講話の前編です。

9月30日（月）、体育館で前期終業式を実施しました。その時の校長講話の全文を掲載します。今号では前半部を掲載し、続きは次号掲載です。テーマは「日本語力」です。

■前期終業式の校長講話■テーマ：「日本語力」（前編）■

- みなさんこんにちは。校長の中島博司です。本日は、合計約17分間です。本日のテーマは「日本語力」です。私は、2015年4月に牛久高校の校長となり、その時から「アクティブ・ラーニング」の研究を始めました。そして、その翌年の2016年4月にこの並木中等教育学校の校長になりました。世間では、私が来たから、並木中等で「アクティブ・ラーニング」が始まったと思っている人が結構多いのですが、実は、私が来る1年前、つまり2015年から本校では、「アクティブ・ラーニング」がスタートしていました。ですから、今年で「AL5周年」となります。
- 私は、2016年5月にR80を、2017年1月にT〇学習を考案しました。2018年からは、「AAL（アート・アクティブ・ラーニング）」と「日本語の4技能」を提唱し、2019年には「ニュータイプ校」という概念を発信しています。そして、現在、全国各地で研修会の講師をつとめています。今週は、母校である筑波大学で授業を担当します。来週は、静岡県と石川県と富山県に行きます。
- 私は、「アクティブ・ラーニングで学力が向上します。」と自信をもって全国で話しています。それは、本校の先生方や生徒の皆さんのおかげなのです。皆さんは、本校の先進的な教育の中で育ち、見事に学力を向上させています。この学力というのは、「知識・技能」だけでなく「思考力・判断力・表現力」、そして「主体性・多様性・協働性」をも含んだ「学力の3要素」の全てのことです。
- では、なぜ、アクティブ・ラーニングで学力が向上するのでしょうか。それは、目的がハッキリしているからだだと思います。何度もお話ししていますがアクティブ・ラーニングの目的は「アクティブラーナー（能動的学習者）」を育成することです。皆さんを4年間見てきましたが、みんな「アクティブラーナー」に成長したな～と感じています。私は、勉強というのは、昔も今も、最後は机に向かってひたすら一人でするものだと考えています。「アクティブラーナー」なら、その勉強を前向きにとらえ、楽しくできるのです。
- 今、6年次生は、プライトホールや家で、必死に受験勉強をしていると思います。そして、成績がもの凄く伸びています。模擬試験によっては、5教科総合平均点で茨城県で1番になっています。でも、受験勉強は、これからが本番です。粘り強く頑張ってください。
- さて、ここに1冊の本があります。『日本語力 人生を変える最強メソッド』という、出口汪（てぐちひろし）先生の本です。10月10日発行の本で、昨日発売されたばかりです。出口先生は、かつて大手予備校でカリスマ現代文教師でした。旺文社のラジオ講座の名物講師でもありました。皆さんのお父さん・お母さんや先生方の中には、出口先生の参考書・問題集で勉強された方も多いと思います。
- 私が、「論理力」を育てるためにR80をつくった時、その「論理力」の定義は、出口先生の定義をお借りしました。「論理力」とは、「相手の主張の筋道を読み解き、自分の考えを整理して伝える力」です。→次号(第460号)に続きます。

